

イソノギク（前同）



海岸の岩上や断崖上に生える多年生の植物です。茎は分岐して地上をはったり、斜め上に伸びたりします。所々から根を下ろし、長さは15～50 cmくらいになります。葉はヘラのような形をしており、やや多肉質で、先は円くなり、茎の先に束生します。主に春から夏にかけて直径3 cm、内外の白色や淡青紫色をした美しい頭花をつけます。

今回製作した植物レプリカは準備が整い次第、博物館での展示を予定をしていますので、ご来館の際にはぜひ、ご覧ください。

オキナワマツバボタン（前同）

海岸のサンゴ礁石灰岩上に張り付くようにして生える多肉質の多年生の植物で、茎は根茎から束生して高さ5～10 cmくらいになります。葉は長い楕円形で、多肉質をしています。花は黄～橙黄色をした1 cmくらいの花で、日中ひらき夕方閉じます。



参考文献

池原直樹 1979『沖縄植物野外活用図鑑』「第4巻 海辺の植物とシダ」
大川智史 林将之 2016『ネイチャーガイド 琉球の樹木 奄美・沖縄
～八重山の亜熱帯植物図鑑』

恩納村の文化財 68 文化財担当：大城

『サンゴ礁が育んだおんなの暮らし展』

開催について

本村は、平成30年7月21日にサンゴの村を宣言し、その記念として当館では、毎年同展示会を開催しています。今年も、サンゴ礁と人々の暮らしをテーマにサンゴ礁が育んだ自然環境と人々の営みや現在、行われているサンゴ再生プロジェクトなどを紹介します。ぜひこの機会に地域の自然環境や歴史に触れてみるのもいかがでしょうか。多くの村民の皆様にご覧いただけますようお待ちしております。

期 間 6月13日(土)～7月12日(日)

※毎週月曜日と祝日の翌日は休館。

詳しくは恩納村博物館ホームページをご覧ください。

場 所 恩納村博物館 2階展示ホール

開館時間 午前9時～午後5時まで（最終入館は午後4時30分）

入 館 料 無料

